911.3
キ

金亀城外十境集

許古玉

年に及ぶ婚礼の事ども流行の四
方をうつし画ふ美代の易にして
山水を清雅成婚を義易を四時と宮
く眼前新なりすべて翁もうつし移し
業門の録ふ画ふをうつし風雅教を
詩歌の約となり移りうつる斯く古くして
作き古くして世の人々の称賞と後世の
変と感吟に堪と書し隣杖り頼を賑

金龜城外十境

許六圖画

寛政元年己酉春

神代梅
念佛ゆへ
ほころび
民林
森云ゝ畫

近列夜根城外
十境
北野寺
梅林

まれまへ廟そうの梅の風　長秋　安信
孫の〻梅みかをる社の邦　、　長秋
神心うけ利て清き梅ぬ邦　、　漢流
神かきや梅り氏よの数ぬ　、　良次
駒犬の梅みまゆを林うれ　伊吹山下　可トー
敬梅と鳥帽子みゆる義れ　長秋　何計
神社場も食ぬ梅は流きう　、　定心
梅ときて社人まゆをうれ　城ぬ養　一滴

梅植て薬屋梅うれ植ぬ　、　漁屋
梅植て男系の氏みは中れ　、　参ぬ　相撲御　加平
梅咲抜神ぬ立て神利　長信　鯛河
神の森接種の梅そうり　醒井　雪ぬ　友竹
梅ちゆを駒犬の額まて　大音御　晴ぬ
後人や入しとかうゆ遊梅　清水郎　見山
湯立て家そうり梅の宮　柏原　接ぬ
神通の立ぬ先と梅う邦

清水の
不見
五月廿
森之福

善門山
白櫻

御園取ル所ノ梅ノ花　夢之

山梅うゑてうゑられぬ、　柳枝

きふそ見東の門のさくうれ　守流

蕾なれたるサとうゑられ　栽

子の法めとさせてうゑき梅ル　之伯

はなの位持かそふれ梅うれ　且丹

何きうゑられぬ梅なきう　雅堂

ちみれてうゑ法ぬ梅ル　迷行

飯塚のかとうゑ梅ぬきう郎　柏原　江水

蓑薄ふそ白き梅を似合しき　ミノ　木鱗

物ちうゑまて事と梅　岳堂　黒人

庚申堂
藤蘿
雪芝
武林

面白ク鐘みゆる花の花　亦松花

わらはき世庚申の花盗ん　一壺

醉醒や花み月ゝや申の夜　月南軒

かゝの法み尋ゝ人世ち花　角水

連馬みゆるけてゝ人ゝき花の夢　歩石

待寄て庚申の花折もあり　莫忠

庚ゝ一房のられ花のられ　芝拍

花の蜂射ゝられすや庚申　猪水

灯明み花の吹ゝ寄夜うれ　法舟

庚申の猿の尾ふゝ花の花　竹尾

歌ほゝのもゝわ面ほゝの花　竹裏

花のられ猿の一尋ゝも　長夏　河南

芳夜ゝ七双猿や花かゝ　伊香郡井口　由長

鳥籠山
時鳥
何吟ずて
鳥籠山
毎
月洞

鳥籠山
時鳥

山の人とうそみとすれば

犬上や一月ちゆほゝまれ

ほゝまれ如嫁世床の山

松江富の市やとこの戸

三船　美船

玄孫　玄別

濃井　一弧

玄孫　玄等

犬上や弥そいを守る歌　大津　尚白

ふるゆきの山寺ぶを利けり　元水

庵の山のほきはすそやけ鳥　洞月

ときのあるおもほけまき寺　俳仙

とこの山ふるの色ゆかたけり　青尾

庵の山氏ふるふるふる郭ゝ　山雪

蜀魄別み色ありとこの夢　羽笠

ほゝまれおいてけり庵の山　柳京

山のふるとうそみふるけり　[illegible]

犬上や一月ふるほゝまれ　[illegible]

ほゝまれ如嫁世庵の山　[illegible]

杜宇鳥のまやとこの声　[illegible]

山の牧の
笛とうれ
ゆりうれ
蘭館主人
春之写

老岩
新樹

小天狗ヲ異ミ熟ノ分ヲ其之　　之
神ヲ以テ汀ノ宮ヲ言其之　　之
いたぢもの月ノ可基之　　探原
新樹小葱ヲ植ぬ中也　　長斉
枝葉ヲ以テ行ベキ神ノ礼　　石軒
盃中ノ虫ノ大ナル神ノ小　　一名
杉苗トサシテ人ノ新樹ノ　　一友
枝ノ根ヲ井也言其之　　蟹ヲ彩

火ヲ以テ毎ノ轉シテ言其之　　何軌
ヲ以テ世ノ鳥部ヲ言其之　　紙ノ下如蕎
養虫ヲ以テ生ノ山　　清井氏忘水
ヲ以テ中裏ノ神ノ礼　　大津通宣

おもてを
紅みを
行くもの色
巴東樓
春云再

作和峯
紅葉

矢の根ねく峯の梅の古木哉　大津　一龍

白雲の梅みかゝれ浮世ゝれ　〃　在き

水中に心みそちてす秋の景　〃　之辰

浅く地の黄いさ哉峯の梅かな　〃　兼生

軒つくれ良やりけら秋梅　〃　笑山

古池やそよへぐさぬ村梅　〃　可休

梅の枝て背に朧ぬ秋の宴　盲人　砕吾

一すり山の奥見んりみち哉　とゝ京坂　杏巴

城辺の二三を分ぬりみちかれ　〃　不律

雨にぬれ人に尋せ秋りみち　〃　雲雨

人の背梢あれ山の秋の景哉　〃　一噫

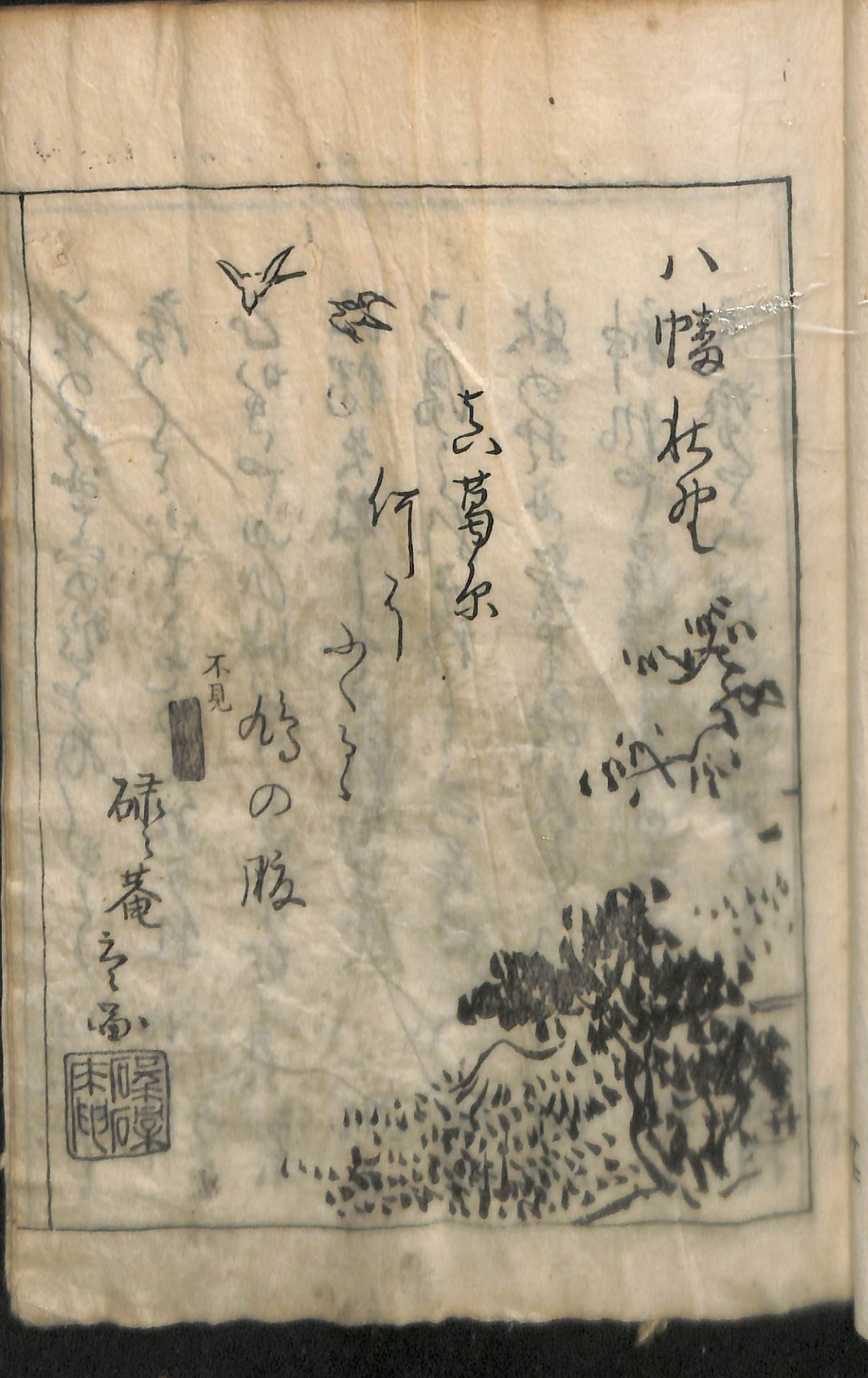
見おろして海にあれかへぬ梅かな　柳京　梅室

塩干の
絵梅堂
月の海
蔵版堂
春之亭主人
春之亭

西湖
月夜

金二うれも身投さん月の海　雪田
百般みうやまるれきる海の月　玄仙
湖や紙の雲もなしの月　望夕
、鼓白
繩の乱月の為みをなりきり
、中沢
沖の月竹の一つはひきり
、芦衛
みもり陸行ものれ月の
、コ舟
月の海をの月のもんもあみきり
、五重
湖や沈り山みえれ月の影
、陳力

影法師の踏みもめれぬ月の影　下坂望和
湖みこうてもきき月の影　名古屋市隠
海の海はいの月おもきり　森木鶴


八幡杉丸
京葛尓
行くゝ
杉の股
不見
硯菴主人

花の野やみきの袴と成にけり　京 丁く

廣しとて小草をめし秋うれ　伊勢郷 このむ

むかしやゆひ結まつ中納言　京 〻

只擢失敷しておんれむ野ぶ　孤舟

河陽ち千種もこつ花の山　挿吹

秋の野や筆をおもふ京の秋、　湖峰

神風や多賀てふ花のきかし　夕九井 哲子

身幾かや八幡の秋の祇の世并　スてヒ 心梢

秋の野みきは流神の風田ぶ　大ほ 淳児

草そうふ鳥井の前のむ野ちれ　〃 如芳

林の下より花野みつる出羽ぶ　夕ハタ 東柳

村雨
時雨
村雨や
塩竈うら
さびしき
如石亦
画

月さへや松原しさにきたれけり　ミノ 荊口

松原の砂みちふきてはれけり　曽住

松原や一河千神きたれ　松原 亭吟

東京の[illegible]年みなかみきたれけり、路通

松原ハ海老の[illegible]けりけり　ヒゴ 竹風

うきゝのさけ[illegible]けりけり、蕉雨

薪割ハ舟みなかみけりけり、珂北

帆も舟ものうら[illegible]きたれけり、め松

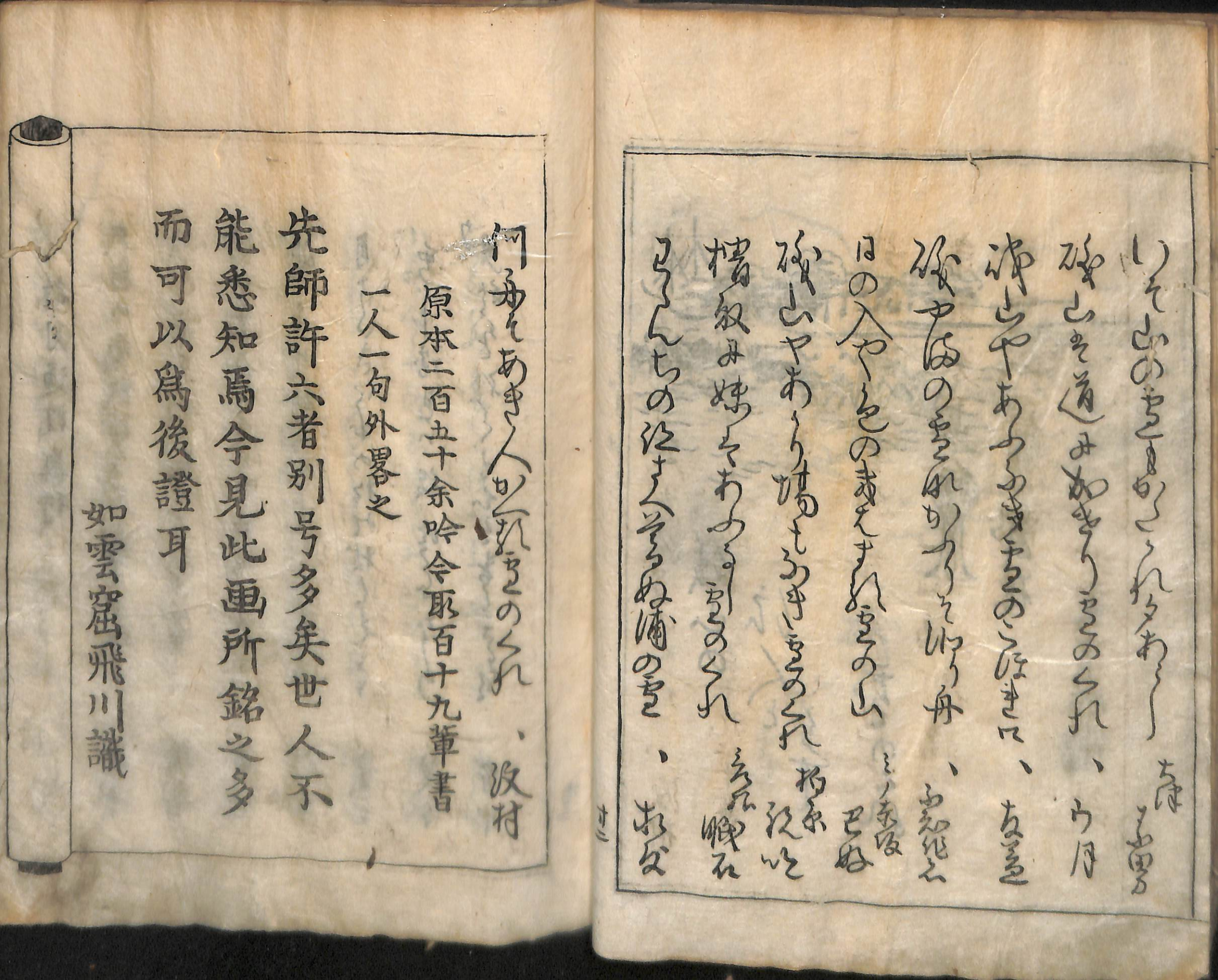
夕汐の青薄[illegible]神有きたれ、如風

松原の虹のちる[illegible]けりけり　曽良 桂人

諸ともきたれ大井川松の[illegible]けり　亥 毛紈

磯山

磯山の
法人と
雲の
武林



河舟とあき人の船ちのくれ　汲村

原本二百五十余吟今取百十九葉書

一人一句外畧之

先師許六者別号多矣世人不能悉知焉今見此画所銘之多而可以為後證耳

如雲窟飛川識

旅月通院奥行

夕影の西紅もうく霧の那　流冲
かけ香をもとめつつも岩　緒虎
浦を染西しもかたに不中　竜川
遊をれ砂のもとくもとも　引牛
月さきはむの松れ枝もとく　青々
西に濃色い板　濃かなり　笑々
第秋を弱くもとも書もとも　省中

かるかあ色を後せもも中　芦水
小苔四海もとくみ和尚寺　仮無
ちくしてうくうかかかもも　仰也
ものかかを入道数に　もとれて　里秋
又世もとし　古しくみ事　馬瓢
秋の絵　赤ものの月の唯秋　洲夏
不ものを光河と書もとも　呉琴
朝ものを秋秋かも今を家もも　塩里

[illegible] 牛窓

[illegible] 牡蠣

[illegible] 筆

赤畧

石[illegible]川[illegible]

[illegible] 紙川 亡師

[illegible] 木泉 三河

[illegible]

[illegible] 蒼浪 有中

[illegible] 嘯臺 尾張

時[illegible] 二柳 浪花

[illegible] 自得 信濃

[illegible] 沂風 近江

[illegible] 北雅 名護

[illegible] 陶更 洛

[illegible] 素鳴 吳服

[illegible]

[illegible]

尾張　曉臺

浪花　二柳

信濃　自得

近江　沂風

若狭　北雅

洛　園更

吳服　素鳥

[illegible]を　鶯石

雨去りて自ら先ず初めて見る　越後　巴陵

色芹の[illegible]　摂津　青蘆

[illegible]　近江　去何

山里の水程もしけし　芦水

蓑虫の森にいつ宮　仙臺　朝者

干物ふ[illegible]　仙臺　柳[illegible]

菊入れかたひらもも　[illegible]川

山鳥時に手自ら[illegible]　法　重厚

酒止[illegible]　近江　駒道

[illegible]　旭霞

村[illegible]山[illegible]　吳琴

[illegible]　洞爰

[illegible]月　仮奥

[illegible]　江戸　巻河

[illegible]　近江　圃丈

山高時代和月は桜雲　法　重厚

酒は二日ほどあるもの　近江　駒道

醒かぬ秋のいとゝ赤き糧　旭霞

村雨や山もゝゝ河雲　吳琴

菊岩ほ時雨の跡やそゝぐのゝ　洞爰

沙くゝてもいとゝものあはれ月　仮矣

潜せる影ほのかに時雨ふる　江戸　卷河

一歩ゝ自ゝいとゝ星ゝ　近江　圃丈

生月玉川　石巻　子子　野辺　、　守年

新しき花　小喰　鼻　乗　乗　、　菊二

枝　乗　孫　小　吳　茅　花　蓮車

乗　乗　引　乗　乗　乗　乗　乗　近江　師由

早蕨　花　花　山　延　、　里秋

乗　梅　新　乗　乗　牡　乗　塚麦

乗　第　田　種　乗　宵　自　武　葵太

乗　れ　乗　の　乗　乗　下　宮　を　雨猪

ほ　乗　乗　乗　乗　自　乗　乗　上毛　一紅

小　乗　乗　乗　乗　乗　乗　乗　ワカサ　老蓋

乗　宮　乗　乗　一　乗　乗　乗　埜浩　玉眉

海川　や　め　乗　の　流　乗　乗　浩　湖山

枝　乗　乗　小　宮　乗　乗　乗　浩度　学湖

五　乗　や　仙　い　乗　み　を　流　、　右汐

猛　抱　乗　乗　乗　乗　自　乗　味粒　吾毋

馬　浩　乗　柳　か　乗　の　川　乗　秋芳　文塩

日の下くさ法華経に眠るほとゝぎす　出羽　湖柳

春雨や花のいとゝ猫を舐る　尾張　甚雨

ふるさとゝさくらとゝ雨の夜　常陸　青容

春雨や雨うち降る二ツ郡　越後　挑弦

風吹て鶯ふつり枯野哉　志ゝ　東溪

落ル花納ゝ咲れ雪ル哉　江州　清水

春雨や夕ゝ柳の芽ゝ　上毛　朝宇

一人ゝ戸明く梅ゝ雨　信州　文星

梅ゝに柳ゝ春ゝ雨明ゝ哉　豫州　楚時

春雨ゝ雨ゝ降ゝ雨ゝ　硫黄　石峰

月の梅新の花ゝ雨ゝ　信濃　古亭

降ゝ雨ゝ柳ゝ雨ゝ　常陸　昌夕

降ゝ雨ゝ夕ゝ雨ゝ　信　明五

笑ひ人の口ゝ雨ゝ　可堂

卯月雨ゝ雨ゝ　丹波　洞々

八月や大井ゝ雨ゝ　信州　嶋山

[illegible] 延喜 [illegible] 信濃 [illegible] 浦紙

[illegible] 東武 趣牛

[illegible] 法 [illegible] 貴交

[illegible] 、 [illegible]

[illegible] 但馬 [illegible] 菊古

[illegible] 筑前 [illegible] 思忠

[illegible] 安藝 仙十

[illegible] 東武 成美

[illegible] 法 車蓋

[illegible] 、 [illegible]

[illegible] 近江 [illegible] 梅仙

[illegible] 法 芦流

[illegible] 、 白湖

[illegible] 安藝 [illegible] 赤流

[illegible] 伊法 [illegible]

[illegible]人 法百花
[illegible]京に[illegible]目[illegible] 越後 桃雖
大[illegible]の池に[illegible]の路 [illegible]サ 沂山
[illegible]の子[illegible] を 潮花
目に[illegible]、[illegible]州
日[illegible] 法 眉山
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]

[illegible] 山城田原 毛條
[illegible] 大は 五来
[illegible] 去り 蓋里
[illegible]の[illegible] 桂广 [illegible]山
[illegible]の[illegible] 発ち 依兮
城上の[illegible]、絲[illegible]、爭星
[illegible] 法 九莖
蓮親に[illegible]、[illegible]

雅識忘し水の雲居卯花哉　近江 其諺

宇治辺の庵や夕月夕紅葉、　車戎

猿丸や流るゝかれ薄離　浪花 渭川

来れ来やとりは繰りを繋かしら、　肴庸

夜田や嫁かへり来たる人　伊勢 舞曲

郭公や歌身を霊ふてる臥み、　湖月

立ゆかは秋も咲のあふ月これ　綿雲 枝卜

来るの錦やと咲は湖なみ　大和 河堂

花宗を也まの小僧忘し春夷ゝ、　互扇

出桜小麦まで白小茶摘らる、　如声

山里や梅とかへし小酒売、　古柄

茶の子や菓子入つゝ茶摘ぞ、　不墉

立ゆかや咲きもぬる西見て海　浪花 常阜

来月や枯し落し落かける、　杜雲

もくれんの門をあかく白ひかな　左右 南明

竣滋中乃節中と咲く夕アつ郷　尾張 一笔坊

竹はやしの中に沙弥の墓 上野
[illegible] 身の [illegible] 苔の [illegible]
麦藁にて巻て紙にて [illegible] 山家 近江 [illegible] 里
[illegible] 鶏に杖ついて人をあるく、松茸
鮫汁やまとの [illegible] 、鯖虎
[illegible] 中やうん [illegible] 、[illegible]角
[illegible] 指男 [illegible] 、馬瓢
正月や四角の [illegible] 、青く

[illegible] 法 甫足
月一つ [illegible] 左甫
[illegible] 郭達
[illegible] 、[illegible]好
[illegible] 、[illegible]
井戸いそ [illegible] 、[illegible]石
[illegible] 、[illegible]好
[illegible] 、[illegible]律

梅ちりて春のくれぬる物うさ　五律

新もちの中宵紀行　近江　引牛

新もちの中宵紀行　一夜の間、曾我

芋堂の宿もとめて夜明、筆く

身をうの流れ川にさらされ、ゆく

法師の影を追ふ蛍哉　伊賀　杜青

蛍かりもむしの老せし友の髪　信　喜風

蛍火の実りをうの合歓の花　鹿川

跋

王

発句あり世にあり八しく筆の行
杖にあり一軸を神に奉る行
方寸に墨をくだす画筆
筆に発句を八影ふ雅波
ふ一句美文の丸八ふ掃
ふ方寸の玉ふけ二ふ
十境の名も世に出ふ

柳里文庫

國學院大學
短大
第6372號
受入
昭36.3.14

京三條通御幸町西江入町
蓑門書林　菊舍太兵衛